

北のとびら

vol. 125

令和3年11月



上川北部
特集



私設図書館のいま

アート巡礼 上川北部／つくる人in下川町 河野文孝
ジモトデザイン 幌加内町・イトウ手ぬぐい
伝わる文化 日向神代神楽／ART FILE せぎねちあみ

財団事業インフォメーション(2021年12月～2022年3月)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公演やイベント等の開催が変更または中止になる場合があります。公演等の実施については、事前にそれぞれのお問い合わせ先にご確認ください。また、各公演等の開演時間は主催者にお問い合わせください。

文化交流事業(招へい)

●第12回極寒芸術祭。2022弟子屈(野外美術館開催)

期 間:2022年2月2日(水)～3月3日(木)

会 場:弟子屈町川湯温泉 ARTInn極寒芸術伝染装置周辺

入場料:無料

問い合わせ:てしかがえこまち推進協議会 ☎015-482-2940

(開催期間中:アート部会 今井善昭 ☎080-3830-0202)

文化提携交流事業

●神田山陽独演会(仮)

期 間:2022年2月12日(土)

会 場:かでのホール

入場料:2,000円

問い合わせ:(公財)北海道文化財団 ☎011-272-0501

●北海道ダンスプロジェクト

「新たな挑戦～NEXT ONE 2022～特別編～」

期 間:2022年2月19日(土)、20日(日)

会 場:かでのホール

入場料:2,000円

問い合わせ:(一社)北海道ダンスプロジェクト ☎011-221-8055

新進アーティスト育成事業

●北海道高校演劇Special Day

日 時:2022年1月6日(木)

会 場:かでのホール

入場料:500円

問い合わせ:株ノヴェロ ☎011-281-6631

●北海道民謡 魂を聴く

日 時:2022年1月22日(土)

会 場:芽室町中央公民館

入場料:一般800円、高校生以下300円

問い合わせ:(一財)帯広市文化スポーツ振興財団

☎0155-62-4680

アートシアター鑑賞事業

●南国の音スティールパンコンサート

幌延町公演

日 時:2022年1月20日(土)

会 場:幌延深地層研究センター

入場料:一般1,500円、高校生以下1,000円

問い合わせ:幌延町教育委員会 ☎01632-5-1117

網走市公演

日 時:2022年1月22日(土)

会 場:オホーツク・文化交流センター

入場料:1,000円

問い合わせ:網走市教育委員会 ☎0152-43-3705

●あかちゃんとママのジャズデビュー

日 時:2022年2月6日(日)

会 場:上士幌町山村開発センター

入場料:500円

問い合わせ:上士幌町教育委員会 ☎01564-2-3024

●札幌ジャズアンピシャス

日 時:2022年2月13日(日)

会 場:砂川市地域交流センター

入場料:2,500円

問い合わせ:NPO法人アートステージ空知 ☎0125-23-6330

●北と南の民謡&和楽器コンサート～北彩南美～

日 時:2022年2月20日(日)

会 場:標津町生涯学習センター

入場料:1,500円

問い合わせ:標津町文化協会 ☎0153-82-2900

まちの文化創造事業

●市民で創る創作劇～あれから10年、そしてみらいへ

日 時:2021年12月18日(土)

会 場:深川市文化交流ホール み・らい

入場料:一般1,000円、学生500円

問い合わせ:NPO法人深川市舞台芸術交流協会

☎0164-23-0320

●「おろかなりわがこころ～遙かなる菌糸社会からの呼び声～ Sapporo Dance Collective 2021年度公演(仮)」

日 時:2022年3月4日(金)、5日(土)

会 場:生活支援型文化施設コンカリーニョ

入場料:2,000円

問い合わせ:Sapporo Dance Collective Council(SDDC)

渡辺たけし ☎090-3890-5808

●体験版 芝居で遊びましょ♪Vol.19製作事業「きぼうの嶽」

日 時:2022年3月12日(土)

会 場:あさひサンライズホール

入場料:前売1,500円、当日2,000円

問い合わせ:あさひサンライズホール ☎0165-28-3146

●第3回 北海道キッズ落語全国大会in砂川

～大空と大地とこども達

日 時:2022年3月27日(日)

会 場:砂川市地域交流センター ゆう

入場料:無料

問い合わせ:NPO法人ゆう ☎0125-54-3111

INFO

WEBマガジン「北のとびら」創刊。冊子にはない情報も!ぜひご覧ください。

WEBマガジンはこちらから! <https://haf.jp/kitanotobira/>



全道各地で読み聞かせ。剣淵町の移動図書館車



巨大絵本や、スタッフが厳選した絵本が並び車内は、暖かくて明るい、居心地の良い空間



移動図書館車を運転するのは渡邊さんの役目。毎回、渡邊さんを含む「けんぶち絵本の里を創ろう会」の若手メンバー3人で現地へと向かう

自身も子どもの頃は何度
も絵本の館を訪れたという
渡邊さん。「絵本は子どもの
想像力を育み、心豊かにし
てくれます。遊びの選択肢
の二つに読書があることはと
ても良いことです」と、読書
の機会に触れる大切さを話
します。
コロナ禍により、当初の予
定回数よりも少なくなった
ものの、8月から10月にか
けてむかわ町、中札内村、

道内各地に絵本を届ける
絵本キャラバンが始動
「絵本の里」として知られ
る剣淵町。その背景には町
の青年有志によって立ち上
げられた「けんぶち絵本の里
を創ろう会」による奮闘が
ありました。
同会は1988年に、
絵本による町づくりを目指
して設立。今年で30周年を
迎えた「絵本の館」の開設

にも尽力するなど、その活
動は「ふるさとづくり大賞」
総理大臣賞をはじめ、多く
の賞を受賞しました。現在
も様々な活動に取り組む同
会が今年、新たな企画とし
て立ち上げたのが、移動図
書館車で全道を巡る絵本
キャラバンです。
「数年前に出版社から移
動図書館車を寄贈されたの
ですが、年に数回しか利用
する機会がなく、もった活

用できないものかと考えて
いたんです」と話すのは同会
事務局の渡邊一宝さん。「移
動図書館車を活用して道
内各地に絵本を届けたい」
と理事会に提案したところ
多くの賛同を得て、絵本
キャラバンは始まりました。
キャラバンカーに積まれて
いるのは約550冊の絵
本。書棚のある車内は4畳
ほどの広さで、靴を脱いで絵
本を読むことができます。

絵本は想像力を育み、
心を豊かにする

内側の扉には人気絵本の
キャラクターが描かれてい
て見た目も華やか。訪問先
では車内を開放して自由に
絵本を読んでもらうほか、
紙芝居や絵本の読み聞かせ
も行っています。
絵本の里・剣淵町のPR
も兼ねているため、絵本キ
ャバンは当面無料。受入先
を募集していて、希望があれ
ば、日程を調整して絵本と
共にやってきます。

留萌市の3箇所に出動し、
200人以上の子どものた
ちの笑顔に出会うことがで
きました。
「キャラバンカーを開ける
と子どもたちがわあ！と歓
声をあげ、楽しんでくれまし
た。今年は緊急事態宣言が
あり、行くのを断念した地
域もあったので、来年はもっ
とたくさんの方にいきたい
です」と意欲的な渡邊さん。

来年も春から始動すると
いう絵本キャラバン。たくさ
んの絵本と共に、子どもた
ちに読書の種を蒔きなが
ら、全道各地を巡ります。

● 巻頭特集 ●

私設図書館のいま

PHOTO/表紙・P02~P03大橋泰之(マカロニ写真事務所)、P04~P05上段 溝口明日花(マカロニ写真事務所)、下段 提供写真及び編集部撮影



読書環境が全国ワーストレベルと言われている北海道。
学び場として、出会いの場として、地域の中の居場所として、
まちの文化を下支えしているのが、私設図書館です。
今回は私設ならではの取り組みや工夫、魅力をお伝えします。

けんぶち絵本の里を創ろう会 (剣淵町「絵本の館」内)

剣淵町 緑町15-3
開館時間 / 10:00~17:00
休館日 / 水曜・年末年始
TEL 0165-34-2624

すべての子どもに本の喜びを！



1.代表理事の高倉嗣昌さん
2.絵本や児童書、布の本、拡大写本などが並ぶ1F
3.布の本を作るための2F工房

ふきのとう子ども図書館

札幌市中央区北6条西12丁目8-3
開館時間／9:30～16:00
休館日／木曜、金曜、土曜
TEL 011-222-4839

かつて北大の教授たちの多くが暮らしていたという「桑園博士町」。現在はマンションが立ち並ぶこの場所に「ふきのとう子ども図書館」があります。同施設の歴史は古く、1970年に元岩波書店の編集者だった小林静江さんが、障害のある子どもにも読書を楽しんでもらうことを目的に、江別市の自宅を私設図書館として

開放したのが始まり。その後、札幌西区平和に移転を経て、「すべての子どもに本の喜びを！」という小林さんの意思を引き継いだ現代表理事の高倉嗣昌さんが私有地の一部を寄付する形でこの場所に移転しました。
「布の本は、小林さんが海外で暮らす友人から譲り受けた絵本をヒントに始めたもので、日本ではふきのとう文庫が発祥です」と高倉さん。フェルトで作られた布の本は手触りが心地よく、色彩も鮮やか。触つてめくって楽しめる仕様です。館内の2Fが工房になっていて、布の本や弱視の子どもたちに向けた拡大写本は、ボランティアのみなさんによる手作りです。
「緊急事態宣言が開け、久しぶりに開館したところ70人近い親子が足を運んでくれました」と笑顔で話す高倉さん。いくつもの善意と、子どもたちの笑顔に支えられ、子ども図書館は続いています。

小樽

家でも学校でもない第3の居場所
サカノマチ学舎



中高生を対象にした学び舎。不登校や通信教育などで学校に通っていない子どもたちの居場所や、放課後の寄り道先として開放中。約1000冊の本や、PC、プロジェクターを完備し、勉強や読書、ものづくりなど自由に使えます。

●住所／小樽市富岡2丁目4-4 トコトコ荘 ●TEL.0134-55-7409
●アクセス／JR小樽駅より徒歩7分
●開館時間／火曜・水曜・木曜13:00～18:00 ●駐車場／なし

美深

ハルキストの聖地、美深町の駅に誕生
JR美深駅「村上春樹文庫」



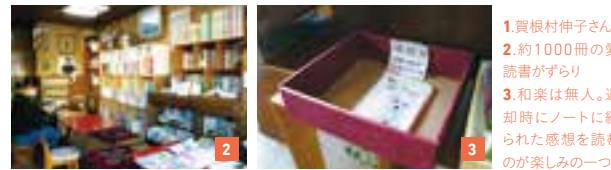
JR美深駅内「BOOKS & GALLERY」と書かれた小さな部屋の中に、著書約100冊を並べた「村上春樹文庫」があります。ギャラリーでは村上春樹さんの小説のロケーションではないかと思われるスポットの写真も展示しています。

●住所／美深町字開運町無番地交通ターミナル内 ●TEL.01656-9-2470
●アクセス／JR美深駅内
●開館時間／9:00～16:30 ●休館日／元日 ●駐車場／無料

1千冊が並ぶ住宅街の私設図書館

和楽な図書館

釧路市愛国東3丁目2-1
開館時間／9:00～18:00
休館日／不定休
TEL 070-5611-5081



1.賀根村伸子さん
2.約1000冊の愛読書がずらり
3.和楽は無人。返却時にノートに綴られた感想を読むのが楽しみの一つ

「釧路自主夜間中学くわいかい」の代表・賀根村伸子さんが、夫婦で営んでいた沖縄料理店を閉め、「和楽な図書館」を始めたのは2020年7月のこと。
「若い頃から古本屋巡りが大好きで、本の中から苦難を乗り越えるヒントや、前向きに生きる勇気を得ていました」と賀根村さん。カウンターや小上がりを利用

して置かれた書棚に並ぶ本のほとんどは自身が読み込んだもので、自己啓発本や自伝本、心理学などおよそ1000冊。小説などの創作ものは少なく、「歴史上の人物や、国内外で活躍されている著名人などノンフィクションの言葉には力がありません」と話します。
「私自身、何度も本に救われてきました。人付き合いが苦手な方や引きこもりの方など、人生につまずいたり、思い悩む方に、これらの本を役立てて欲しい」という思いが図書館開設の原動力になっています。
和楽な図書館では毎月読書会も開催。テーマとなる本や冊子を二冊選び、感想や、関連する自身の体験談などを語り合っていて、参加者の年齢も20代から60代と様々です。
本を介して、利用者同士がつながる場として、和楽に足を運ぶ人は、着実に増えてきています。

苫小牧

自宅を開放し、37年以上続く私設図書館
ピッピー文庫



自宅の一部を図書室として開放した家庭文庫。1984年開設以来、大切な読書環境の提供だけではなく、地域の子どもと母親にとっての居場所や交流の場としても活用されるなど、長く親しまれています。

●住所／苫小牧市柏木町1丁目13-5 ●TEL.0144-74-2235
●アクセス／苫小牧市営バス苫信金川沿支店前より徒歩5分
●開館時間／土曜10:00～17:00 ●駐車場／無料

札幌

食に関する文献を約8000冊展示！
六花文庫



菓子メーカー「六花亭」の真駒内店を私設図書館に活用。ツタにおおわれた外観が印象的で、レシピや小説、絵本など館内に揃うのはすべて食に関わる本です。貸出はしていませんが、自由に閲覧が可能です。

●住所／札幌市南区真駒内上町3丁目1-3 ●TEL.011-588-6666
●アクセス／地下鉄南北線真駒内駅より徒歩約13分
●開館時間／11:00～16:00 ●休館日／月曜～木曜 ●駐車場／無料

上川北部巡礼で探すアート

※新型コロナウイルス感染症の状況によって掲載されている営業時間やイベント開催日時等が変更になる場合があります。



08 今は無きローカル線の思い出の品々を展示 旧JR深名線資料館



1995年に廃線となったローカル線「深名線」にゆかりのある品々を展示している資料館。当時の切符や改札スタンプ、時刻表、駅名標、制服などの貴重な品や、深名線各駅の写真、開通までの物語などを展示しています。

- 住所 / 観加内町字観加内 ●TEL.0165-35-2380
- アクセス / 旭川市から車で約50分 ●開館期間 / 9:00~17:00
- 休館日 / 土曜・日曜・祝日(6月中旬~10月中旬は無休)
- 入場料 / 無料 ●駐車場 / 無料

07 作品の展示・販売やワークショップを定期開催 アトリエUuM



国内外で活躍する彫刻家・長澤裕子主宰のアトリエ。造形ワークショップも開催していて、11月から1月はスチレンボード版画のカレンダー、消しゴムハンコ、クリスマスやお正月のオーナメント制作を予定しています。

- 住所 / 和寒町字川西537番地 ●TEL.090-5412-5375
- アクセス / JR和寒駅より徒歩20分・JR和寒駅より車で3分
道央自動車道と寒川ICから車で5分
- 開館期間 / 9:00~17:00 ●休館日 / 不定休
- ワークショップ参加費 / 500円~ ●駐車場 / 無料

06 最北のJazz & Shot Bar Evans Club



ライブができる日本最北のJazz Barです。プロ・アマを問わず、ライブ、セッション、ジャズ講座などを不定期に開催中。店内備え付けのピアノ・ドラムセット・ウッドベース・PA機器も自由に使用できます。

- 住所 / 士別市東1条5丁目303-23 すずらんプラザ1F
- TEL.090-9528-0414(代表 岩城) ●アクセス / レベつ道の駅徒歩1分
- 営業時間 / 木曜~土曜19:30~23:00
- 入場料 / Barチャージ 500円(ライブ時はミュージックチャージ別途)
- 駐車場 / 無料

05 名寄の音楽発信基地 LIVE HOUSE BLUE BEAT SOUND



名寄市唯一のライブハウスだった『Gaucho』をテナーサクソ奏者である現店長が引き継ぎ、2011年に開業。ロック系アーティストを中心にジャズ、ポップスなど様々なジャンルのイベントを開催しています。

- 住所 / 名寄市西3条南6丁目2 鳥羽ビル3F ●TEL.090-5982-0025
- アクセス / 名寄駅より徒歩10分
- 営業時間 / 19:00~23:00 ●定休日 / 年末年始・ゴールデンウィーク
- 入場料 / イベント内容により変動(ドリンク代別途500円) ●駐車場 / なし

04 「人とのつながり 自然とのつながり」がテーマ 粗清草堂



羊を育て、羊毛を刈り、フェルトにして、ウェア、バッグ、シューズなど天然素材の作品を手作りしています。併設のギャラリーではコートやジャケット、ワンピース、小物など、羊毛の個性が光る作品を展示・販売中。

- 住所 / 美深町字辺深285-5 ●TEL.01656-9-1936
- アクセス / JR美深駅より車で10分
- 営業時間 / 10:00~16:00(6月~10月) そのほかの日時は要電話予約
- ※冬季は、出張展示のため作品を持ち出している場合があります
- 定休日 / 火曜~土曜 ●駐車場 / 無料

03 廃校を有効活用した創作と交流の場 アートヴィレッジ 恩根内



旧恩根内小学校を改装したカフェ、アトリエ、ギャラリー、宿泊施設からなる文化拠点。絵画、木工など創作スペースも完備。地元の人々の記憶を頼りに作られた昭和25年頃を再現した恩根内村の地図も必見です。

- 住所 / 美深町字恩根内25番地 ●TEL.01656-9-6005
- アクセス / JR宗谷線・恩根内駅より徒歩10分・美深町市街より北へ車で15分
- 開館期間 / 5月~10月は火曜・水曜・木曜、11月~4月は要電話予約
- 入場料 / 無料 ●駐車場 / 無料



刺激がいっぱい。
上川北部のアートスポット



01 役場落成記念に制作した砂澤ビッキ作品を展示 音威子府村役場



音威子府村役場では彫刻家・砂澤ビッキの作品を展示。なかでも「天塩川・蝶と鮭」はビッキ氏が制作した鮭の中で最大の作品。同村の砂澤ビッキ記念館は冬季閉館中ですが、こちらは冬も一般公開中です。

- 住所 / 音威子府村字音威子府444番地1 ●TEL.01656-5-3311
- アクセス / 音威子府駅より徒歩10分
- 開庁時間 / 8:30~17:00 ●閉庁日 / 土曜・日曜・祝日、年末年始 ●駐車場 / 無料
- ※砂澤ビッキ記念館(音威子府村字物満内55番地)は4/26~10/31まで閉館

02 地域まるごと博物館の拠点施設 中川町エコミュージアムセンター・自然誌博物館



廃校になった旧佐久中学校を、自然誌博物館と宿泊研修棟からなる複合施設に改装。中川町で発見された日本最大のクビナガリユウの全身復元骨格や、様々な化石を展示しています。

- 住所 / 中川町字安川28-9 ●TEL.01656-8-5133
- アクセス / 旭川市から車で2時間50分・名寄から車で1時間30分
JR天塩中川駅からタクシーで約10分・JR佐久駅から徒歩20分
- 開館時間 / 9:30~16:30
- 休館日 / 月曜(祝日の場合は翌日)、土曜・日曜・祝日(11月~4月)、年末年始(12/29~1/7)
- 入館料 / 大人(高校生以上)200円、大人団体150円 ●駐車場 / 無料
- ※現在は中学生以下無料対応 ※団体は10名以上

日常に溶け込むデザインの魅力に迫る！

成就

競争



▲婚姻色を模した2色使いが鮮やかな「イトウの手ぬぐい」

イトウの保護活動を、
支える手ぬぐい

日本最大の淡水魚と言われる「イトウ」。北海道や東北の一部の河川に生息していましたが、現在は環境省のレッドリストに指定されており、絶滅のリスクが高い「幻の魚」と呼ばれています。

幌加内町の朱鞠内湖は、イトウが生息することで知られる人造湖。道立自然公園に指定されており、周辺一帯は自然保護上の厳しい規制を受けています。

朱鞠内湖淡水漁業協同組合では、乱獲を防ぐためにキャッチアンドリリースなどの様々な遊漁規則を定めています。また、イトウの遡上を助けるための魚道作りや、産卵できる環境を整えるなど、保護活動に

力を注いでいます。

こうした保護活動とイトウの周知のために作られたのが「イトウ手ぬぐい」です。

デザインを担当したのは、約20年前に道外から幌加内町へと移住し、現在は「ホロッカ9」として活躍するデザイナー。道内でも有数の豪雪地帯、幌加内町でのリアルな日常であるホワイトアウトをテーマにしたTシャツなど、移住者ならではの視点でユニークなグッズを制作。町内の印刷物なども数多く手掛けています。

イトウの繁殖期は春。オスの体は頭から後ろが真っ赤に染まる「婚姻色」になります。手ぬぐいはこの「イトウの繁殖」がテーマで、デザインはメスの

「イトコ」ちゃんを目当てに複数のオスたちが競い合う様子を描いた「競争」、無事カップルとなって産卵に向かう二匹のイトウと、その様子を羨ましそうに眺めているクマを描いた「成就」の2種類。実際の婚姻色に近づけようとこだわったピンクに近い鮮やかな赤と青の2色が目を惹きます。可愛らしくて親しみ

やすいイラストと、クスリと笑えるストーリー設定も大好評。収益の一部は保護活動に充てられています。

イトウ保護シリーズのデザインを活かして、ホロッカ9が独自にTシャツやトートバッグなども制作。遊び心と愛情が込められた楽しいデザインでイトウを支え続けています。



「ホロッカ9」ではイトウ保護シリーズの他にも、幌加内町をイメージした様々なアイテムを販売中。



森のキツネ / 家具乃診療所 河野文孝 kawano yasuyuki

町

の面積の約9割を森林が占めるという下川町。その中の小さな集落「一の橋地区」で、家具作家の河野文孝さんは、かつて診療所だった平屋の建物に工房を構えています。

河野さんは埼玉県出身。一度は東京で営業職に就きましたが「ものづくりがしたい」という思いが募り、家具職人を目指して北海道にやってきました。東川町や剣淵町の会社や工房で腕を磨き、2013年に「森のキツネ」を設立。2016年に下川町へと移り住みました。

下川産広葉樹の活用に力を注ぐこの町は、伐採から製材、乾燥を町内で一貫してできるのが特徴。「自分が暮らす町の木でものづくりがしたい」と考えていた僕にとって、下川町は理想の土地でした」と移住の動機を話します。



河野文孝

1977年、埼玉県生まれ。「森のキツネ」の屋号で活躍する家具作家。作品はインターネット(<http://morino-kitune.com>)で購入可能。shop及び家具乃診療所(下川町一の橋240)は毎週日曜・月曜10:00~15:00

元診療所だった空き家を見つけたのは2年前のこと。「廃棄物として捨てられる家具を見るたびに、何かできる」とはなにかかと考えていた河野さんは、診療所という響きにヒントを得て、長く使い込んだ家具の修理・リメイクをする「家具乃診療所」の開設を決めました。

「目の前にあるバス停の名前が診療所前のままだったので、それも活かしたくて」と話す河野さん。自身でリノベーションを行い、森のキツネshop、家具制作の工房としてオープンし、家具乃診療所サービスも受け入れています。

「修理を依頼される方は、家具を購入されるかして、面白くことを計画していきたくいですね」

また、この診療所が大切にした「すすね」と河野さん。修理箇所を記入した「家具のカルテ」も作成し、お客さまに渡します。

た当時のことや、思い出話を聞かせてくれます。家具は暮らしの一部ですから思いや直して使いたいという気持ちは大切にしたいですすね」と河野さん。修理箇所を記入した「家具のカルテ」も作成し、お客さまに渡します。





ロックダウン中のニューヨークで描いた日常

コ ロナ禍でのニューヨークのロックダウン。この特殊な環境下で私に出来たことは、引きこもって、消毒して、制作する、ということでした。今回の個展「Must Have Items」は、この特殊な時期に何を思ったのか、ということを変えても伝えていきたいと考えて描きました。

上の作品は、コロナ禍でよく買ったもの(左)と、ロックダウン中にスーパーマーケットに並んだ漂白剤、観葉植物屋さんで売られていた植物(中央)、そして医療従事者をユニコーンに例えて描いたもの(右)です。

コロナ禍で痛感したのは、アーティストは直接的には何も出来ないということでした。出来ないなら、応援しよう。そうした想いから生まれたのが

このユニコーンです。ユニコーンは伝説上の生き物ですが、そのツノには水をきれいにする力があると言われています。友人の深澤優子さんにイメージを伝えて作曲していただいた音楽と共に、医療従事者に例えたユニコーンが水をきれいにしていくというアニメーションを制作しました。

また個展では、この状況下で送る日々の空気感をインスタグラムで発信していた「NYひきこもり日記」を、一冊にまとめた本も展示しています。

実際にはデモがあったり、犯罪が多発したりしていましたが、友人に向けた絵日記だったので、とにかく元気で生きていくことを伝えたいと思い、かなり柔らかな雰囲気です。ニューヨーク州だけで

も数万の感染者数と死者数があり、不安はついて回っていましたが、ニューヨーカーの明るさと逞しさに励まされていた気がしています。

ものづくりをする人に必要なのは、地域の方達の応援と興味だと思っています。しかしながら、美術は作る人も見る人も学びが必要な分野です。

ニューヨークは、美術館が学校のようなものでした。作家の経歴やどんな人たちとスタジオシェアをしていたかなど、キャプションを読んでいるだけで自然と学んでいけるように作られています。無料や寄付で入れる時間帯もあり、学生や仕事帰りの人で美術館はとても賑わっています。何度行っても新しい発見があり、コロナ前は好みの展示室に何度も足を運びました。大学も

一般に開かれていて、刺激的で楽しい環境でした。

札幌は雪、海、山があり、新鮮な切り口が沢山ある魅力的な街です。移動が難しい時代となり、私自身、今後どういう形で札幌で制作するかを模索する段階に入ってきたように思います。



せきねちあみ

札幌とニューヨークを拠点にしたビジュアルアーティスト・イラストレーター。日本のポップカルチャーと西洋の抽象画の技法をミックスさせている。動物、風景を描いたちょっと不思議な作品達は、アメリカ、日本で展示されている。

VR展示は
QRコードからも!



入場
無料

北海道文化財団アトスペース企画展 vol.47

せきねちあみ 個展「Must Have Items」

2021.9.13～12.10 9:00～17:00 ※土日祝休館 ※都合により臨時休館する場合があります。

場所／札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビルヂング 3F 問い合わせ／011-272-0501

VR展示公開中! <https://my.matterport.com/show/?m=MWvGB87Lw51>

詳しいSTORYはWEBで



「日向神代神楽」は、1908(明治41)年頃に山形県から多寄の日向地区に入植した団体が、同地区に入植した岩手県の阿部鹿蔵という人物から、青少年の娯楽を目的に南部神楽の一流派・大門神楽を教わったのが始まりです。